神戸新聞 2017年10月13日 金曜日 面名 県域３ １３ 18ページ

名前【　　】

超絶技法 華やかに斬新に

伊丹で「並河靖之 七宝」展

明治、大正時代に活躍した七宝家の作品を紹介する「並河靖之 七宝」展が、伊丹市立美術館（伊丹市宮ノ前2）で開かれている。日本のみならず、欧米諸国でも高い評価を受けた並河の作品と合わせて、デザインの基となる下図などの資料も多く展示。華やかな並河作品を多角的に鑑賞できる。

（ライター・加藤紀子）

七宝は金属で形成した素地の上に、釉薬を焼き付けて作製する美術工芸品。カラフルな七宝をちりばめたような美しさが特徴で、長い伝統を誇る。明治時代には、主に欧米の愛好家に向けた輸出用として人気を博した。

並河靖之（1845～1927年）は京都出身。リボン状になった銀線を下図にそって植線し、その中に釉薬を流し込んで表現する「有線七宝」を極め、当時の七宝界をけん引した。自身の求める表現に合わせて、釉薬の改良にも熱心に取り組み「透明な黒」の表現でも知られる。

学芸員の岡本梓さんは「上品ながら斬新な配色、そして技のレベルの高さは、他の七宝家の追随を許さず、海外の愛好家の中でも『並河ブランド』と認められた」と解説する。

世間の批判を受け入れ、時代に合わせて作品を変化させたことでも知られる。今回は、初期の作品から晩年まで、変遷を感じながら鑑賞できる。

「桜蝶図平皿」は、詳細に描かれた下図と合わせて展示。細かいデザインを、そのまま七宝として完成させる高い技術力が発揮されている。

センスと技術が凝縮されているのは「花鳥図飾壺」。漆黒に近い透明感のある黒色の背景に、繊細な植線で表現した花鳥風月の文様が施してあり、互いを引き立たせている。

22日まで。月曜休館。一般700円、高校・大学生350円、小・中学生150円。JR伊丹駅より徒歩約6分。☎072・772・7447

「花鳥図飾壺」（明治後期、清水三年坂美術館蔵）

「桜蝶図平皿」（明治中期、京都国立近代美術館蔵）

明治時代、欧米で高い評価

繊細な表現の並河作品が並ぶ会場＝伊丹市立美術館

フォーカス

美術館に隣接する伊丹市立工芸センター（伊丹市宮ノ前2）では、「七宝の現在―東日本の作家を中心に」が同時開催されている。第一線で活躍中の9人の作品を通じて、七宝の多様な表現方法に触れることができる。伝統的な技法を基礎にしつつ、それぞれの作家が独自の作風を取り入れていることが分かる。

また、多くの人に七宝を知ってもらおうと、「有線七宝」の制作過程を紹介するコーナーも設けた。各段階での作品の状態や、使用する材料などを説明していて、興味深い。

ほとんどの作品は購入することもできる。入場無料。☎072・772・5557（ライター・加藤紀子）

現代作家の作品展も同時開催

さまざまな作風で創作された七宝の作品が並ぶ会場＝伊丹市立工芸センター

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

①この記事の見出しを大きいものから2つ書きましょう。

（　　）

（　　）

② 「七宝」とは、どのようなものですか？わかるところに線を引きましょう。

NIEワークシート／小学高学年～高校／図工・美術、総合、朝NIE